

真実の医療

酵素とファイトケミカル

平田（竹内）進一郎先生

松山夕稀己 Ph. D.



平田ホリスティック教育財団理事長

ホリスティックカレッジ・オブ・ジャパン校長

平田（竹内）進一郎

「ホリスティックヒーリング」

「名医の与える見えない処方」

この度は、第8回森愛会の講演会にお招きいただきまして、ありがとうございます。

私と鶴見先生の本格的なお付き合いは、2001年、今年引退したイチロー選手が、初めてメジャーに挑戦した年から、始まりました。

今にして思えば、お会いした年は、その前になりますので、かれこれ20年近くになります。

当時、鶴見先生は、日本の医師の中で、「酵素」について言及されている唯一の方でした。

私自身が、「酵素」という物質に関心をもって、

栄養学として取り入れた理由には、いままだ陽の目を浴びていない「酵素」とは、心と体をつなぐと言っても過言ではない、栄養学＝酵素を学ぶことだったからです。

多くは、栄養学を学ぶことは、栄養「素」を学ぶことと、錯覚しています。

正確には、栄養とは、「素」という物質でなく、「営み」を意味しています。

「営み」とは、三大栄養（糖質・脂質・たんぱく質）＋ビタミン、ミネラルという栄養素が、体に取り込まれてから、どのようにして、細胞に届けられるかを学ぶことです。

ロジャー・ウィリアムス博士曰く、「私たちの体は、食べたものから作られる」という名言があります。食べたものを細胞に届け、体を作り、体を機能させるには、栄養素＋酵素の役割が、極めて大切なことは、誰もが分かりただけのことだと思えます。

家の建築に例えれば、栄養素が、材料であり、ビタミンやミネラルが、大工道具となります。

しかし、家の建築は、肝心かなめの「大工職人」が、不在であれば、理想的な家は、建ちません。この「大工職人」こそ、「酵素」の役割になります。

ですから、酵素という営みをなくして、栄養学は、語ることは出来ないのです。

「酵素」については、私自身は、長年にわたり、アメリカの酵素療法を研究して参りました。

ここでは、専門的なお話は、差し控えますが、「酵素」は、私たちの健康に大きな影響を及ぼしている消化酵素と代謝酵素の2つがあつて、今回は、消化酵素が適切に働いているのかわからないのかということに焦点を当てたいと思います。

体内で働く「酵素」は、元来計測することが、難しいと言われています。その理由は、職人気質の例えにぴったりで、分かりますか？例えば、その「酵素」が適切な環境でないと、働かないか、働きが鈍くなるのです。それには、3つの環境が左右します。ひとつは、特定の栄養素しか反応しない（基質特異性）、最も適切な仕事をする温度状態（最適温度）と、酸塩基状態（最適pH-エイチ）です。

